

2025 年度日本気象学会東北支部 第 2 回理事会 議事録

日時：2025 年 12 月 25 日（木）10:00～12:00

場所：オンライン（Teams）開催

参加者（敬称略） 鎌谷、岩村、岡前、中野、平野、橋本、早坂、谷田貝、山崎（以上理事）、
伊藤、岩渕、丹野、間野（以上幹事）

欠席者（敬称略） 森本（理事）、武田（会計監査）

司会：橋本理事

議題 1. 2025 年度日本気象学会東北支部優秀発表賞（橋本理事）

議案（資料 1-1）を承認した。

以下、質疑応答。

早坂：細則に「原則、半数以上を学生会員とする。」とあるが、学生以外が上位を占めたらどうするか？

橋本：学生のトップをとるかどうか、その時の理事会で検討する。

早坂：あくまでも「原則」なので、極端に票差がつけばその時に検討するということを了解した。

議題 2. 企画調整委員会「学会運営の将来構想検討 WG」による 2026 年度以降の学会運営に関する提案について（鎌谷支部長）

資料 2-1～資料 2-3 から抜粋して説明。質問はなし。

議題 3. 東北支部における 2026 年度以降の支部運営方針について（鎌谷支部長）

資料 3-1 から抜粋して説明。

2. 2027 年度以降の東北事務局のあり方（1）～（4）に関して承認した。

3. 2026 年度の実施事業案および予算配分案については、以下の通り決定した。

- ・来年度の気象サイエンスカフェの開催は見送る。再来年度以降に関しては、予算や希望に応じて開催を検討する。
- ・支部気象講演会、支部気象研究会、支部だよりに関しては例年どおり計画する。
- ・支部気象研究会交通費補助の予算は 50,000 円とする。

以下、議論の詳細。

山崎：理事会の招集・開催は委託できるのか？→（鎌谷支部長）本部での業務委託となる。

橋本：業者から理事に日程調整をかけて行うことになるのだと思う。

岩村：業者対応は年2回までと聞いている。

早坂：方向性は1、2でよいが実際にやってみないとわからないところもある。うまくいかなかった場合は修正できるよう来年2月5日に開催される支部長会議で伝えておいてほしい。予算に関しては支部人数によらずかかる費用（講演会の会場費など）があるはずなので、WGの提案のとおりでよいのか疑問もあり、フレキシブルに運営できるよう事前に本部に担保をとっておいたほうがよいのではないだろうか。東北地方はエリアが広いため旅費がかかる。

鎌谷：業者委託分の料金はかかることがわかっているので、支部ごとにフレキシブルに対応というのはなかなか厳しいだろうと思う。これで固定するのではなく課題が見えたら修正していくべきとのご意見は、支部長会議で伝える。

谷田貝：理事会のオンライン化はいつからか？

鎌谷：来年度からである。

谷田貝：理事の任期は2年のため、来年度が選挙になる。選挙のやり方について議論したことはあるか？

橋本：選挙にかかわる事務は業者委託となる。具体的な話はわからないが、ネットを使った投票になるのではないかと思われる。

早坂：気象研究会の優秀発表賞は本部委託で旅費は支部という線引きはなぜか？

山崎：褒賞制度を本部が持つということではないだろうか。

岡前：気象予報士会からの発言にはなるが、気象サイエンスカフェについて、当初は予報士会が学会に協力するという形で始まったと記憶している。だが、最近は予報士会がメンバーで準備・計画をやっている状況で、予報士会の支部長会議では負担の軽減を求める声もあった。支部によっては気象サイエンスカフェを開催していないところもあり、無理に開催しなくてもよいのではないかという考え方もある。

橋本：気象学会と予報士会の本部どうしのやりとりがあって、その流れで支部の中でも予報士会と連携することになったと思っているが、年月がたって状況が変わる中で負担感も変わってきているのではないか。開催の有無について検討が必要。

鎌谷：この場で方針をある程度決めておきたい。

谷田貝：気象サイエンスカフェは気象講演会よりは一般向けの内容だとは思うが、気象講演会の内容をもっと一般向けにすれば無理に両方を開催しなくてもいいのではないかと思う。

間野：たとえば来年度サイエンスカフェを実施しなくても、実施する年があってもいいのではないか。

鎌谷：開催したい内容があるのであれば、予算の中で実施するのはよいと思う。

丹野：予報士会本部ではどのように考えているかわかるか？

岡前：予報士会本部は一応気象学会と予報士会で共催ということを言っていたが、予報士

会のすべての支部が関わっている訳ではないので実情がわからない支部が多い。

伊藤：学会本部のHPにあるサイエンスカフェは本部開催のものか？それを東北でもやつてもらうという手もあるかもしれない。

早坂：教育と普及委員会の理事が手掛けているようだ。

早坂：気象講演会と気象サイエンスカフェで重なる部分はあるので、気象講演会は毎年開催することとし、いいアイディアがあった場合に気象サイエンスカフェも開催するとかでもよいかもしれない。

橋本：森本理事からは支部だよりを年2回から1回にするという提案もあった。

鎌谷：来年度に関しては気象サイエンスカフェを開催しないことで調整してはどうか。そうすればほかをすべて今年度並みに実施しても予算内には収まる。

丹野：来年度の気象研究会の交通費補助について、今年度予算から額の引き上げを提案したい。年度予算の中で融通を利かせることは可能ではあるが、計画の中である程度決めておきたい。今年度の実績を勘案すると、50,000円が妥当かなと思う。

山崎：地方の方に研究会に出てもらうのも大事だと思うので賛成する。

谷田貝：学会の会員数を増やすためにも、学生の支援の枠が増えるとありがたい。

谷田貝：気象サイエンスカフェに関して、大学側で企画し、学会支部にも協力（金銭面も含め）してもらって気象サイエンスカフェとすることは可能か？

橋本：できると思う。共催という形をとればよいのではないだろうか。

谷田貝：了解した。

議題4. 2025年度支部事務局業務委託費の使途について（鎌谷支部長）

資料4-1で説明。

業務委託費の使途は、物品（PCとするかは今後検討）購入および気象サイエンスカフェの不足分の補助とすることに決定した。

以下、議論の詳細。

山崎：現在の予算の執行状況は？

丹野：トータルすると予算より2万円くらい少ない状況かと思われる。

間野：事務的な仕事が多少は残るはずなので支部専用のPCを持っていった方がよいと思う。

丹野：PCは回線をどうするかと機器更新の心配があるので、ポータブルのハードディスクという手もあるかもしれない。

山崎：物品を買っておくのはいいと思うが、事務局廃止になった後の引継ぎが大変かもしれない。

橋本：今年度残っている事業は気象サイエンスカフェと支部だよりである。多少足が出てもよいか？

岡前：今年度の気象サイエンスカフェは青森市での開催で青森の大雪の話題を考えている。

橋本：予算があれば仙台から専門家役で若手の気象台職員（学会会員）が行くことなども検討したい。

鎌谷：物品を購入し、サイエンスカフェで不足が出るようなら補助することしたい。

議題 5. その他

岩村：小倉奨励賞の推薦募集が天気の 12 月号に載るはず。該当する方がいれば、直接推薦をお願いする。

鎌谷：東北支部では来年度いっぱいは事務局を残す。ほかの支部では来年度から事務局がなくなるところもあるが、東北支部では長い間事務局の作業の多くを気象台でやっていた経緯があるので、一年度猶予を持たせた。担当理事の方々は、再来年度は事務局の作業を引き継ぐという意識を持って、来年度の一年間、事務局の作業を見ておいてほしい。その一年間で、引き継いでいただければと思う。